

漂流 憲法

安倍時代の空気感

<上>

「校長先生」の発言が、マ
チにきき波を起した。小清
水町立清水中の長野藤夫校
長(52)の卒業式での式辞のこ
とだ。

「初代の神武天皇に始まり、
第一うら代の上天皇をいた
だくわが国がいかにすばらし
い国であるか、日本人がいかに
優れた民族であるか、しっ
かり自覚してなれよ」と(昨
年3月)

「今日歌った国歌・君が代、
ここに掲揚される国旗・日の
丸に誇りを持ち、わが国を愛
する心で、その名に恥じない
堂々たる人生を積み上げてい
ってほしい」(今年3月)
式辞は昨年も今年も、学校
通信に全文を掲載し、各自治
会に配布された。だから学校
関係者だけでなく、多くの人
の目に触れた。

「問題視が問題」

「騒動にならないうまい」。

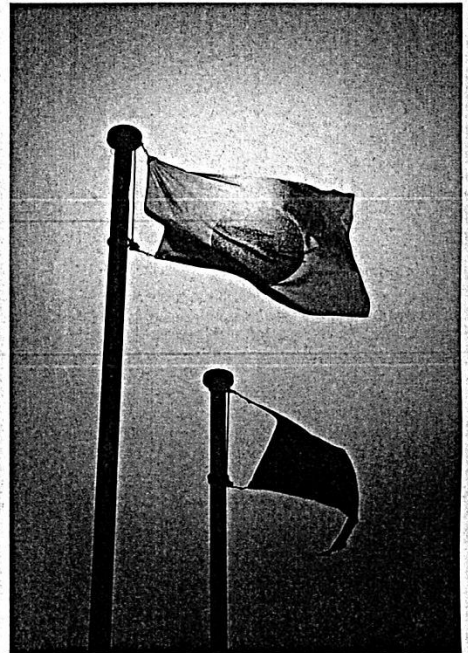
憲法19条

思想及び良心の自由は、

これを侵してはならない。

「左」「右」の軸

「思想の自由」に戸惑い



北見市内の公共施設に掲げられた日の丸。市内では全小中学校に国旗掲揚塔が設置されている

そう思ったのは浜小清水水南
自治会長で、元小学校長の若
槻忠臣さん(76)だ。戦前の国
民学校で育った若槻さんは、
式辞に「国家主義、民族主義的
なおおを感じた」という「君
が代」と日の丸のために多くの
日本人が犠牲になった。教育
者として過去に学べば、この
ような発言にはならないはず
だ。

長野校長に取材を申し込ん
だ。校長室での丁寧な応対だ
。「法令に基づいて言っ
ているだけです。何か問題が
ありますか。問題とするこ
とが問題じゃないでしょう
か」。校長は静かにこう語っ
た。

「君が代」に掲げよう変更に
した。校長は静かにこう語っ
た。

なんで驚いたんだろう。確かに法律は否定できないし、愛
国心が悪いとは言えないよね
。日本の右傾化が指摘される
ようになって久しい。特に安
倍政権になってからは顕著
だ。道徳の教科化を目指す下
村博文文科部長は、戦前の
教育勅語が「教育目標」に
「至極まとう。今でも十分
通用する」と国会答弁で述べ
た。左右の中心軸が少すつ
ずれ、何が「右」で、何が「左」
か、そのどこが問題なのかを
明確にするのは、ますます難
しくなっている。

教育指針の転換

教育現場の指針はここ20年
で大きく変わった。政府は1
999年、国旗国歌法を制定
し、小中高の学習指導要領で
「私、

安倍晋三首相が目指す集団
的自衛権の行使容認に向けた
解釈改憲の議論が活発化する
中、市民の身近な問題をめく
っても憲法が揺らいでいる。
わたしたちの社会、政治との
距離感を憲法を通じてあらた
めて考えたい。

「憲法19条」
「思想及び良心の自由は、これを侵してはならない。」
「騒動にならないうまい」。

「北見報道部の石橋崇が文を、
小葉松隆が写真を担当し、3
回連載します」

オホーツク 網走 美幌

